

挟間三十三霊場について

小野 三郎

町内に「南無大悲観世音菩薩挟間西国三十三霊場」と「挟間四国八十八ヶ所」がある。この霊場と札所は挟間町「ふるさと研究会」が選定した場所である。ふるさと研究会員の「昭和五十九年九月参拝」のメモが残されている。このメモからふるさと研究会の設立はメモの前年の昭和五十八年頃と推定される。会の設立と前後して三十三霊場と八十八札所が選定されたのであろう。

会は既に解散（平成十七年？）しており、会に関する資料がない故、設立趣旨や霊場、札所選定の基準や目的等は推量せざるを得ない。

会の設立が推定される昭和五十八年頃の日本は高度経済成長期であった。時松分校の廃校が五十八年である。挟間町の農家人口の割合は昭和三十五年に八十五%であったのが昭和五十五年には四十七%に減っている。（挟間町誌五十九年刊）この頃から農業機械が普及し作業能率は格段に向上した。繁忙期に行われていた共同作業や労力の貸し借りをしなくても戸別（個別）の予定で農作業ができるようになった。機械化で農業以外への就労が可能になり二種兼業農家が急増した。また、職業を換える人や都市部に移り住む人もあり挟間町周辺地区は生活様相が一変した。

ながい間、地区で行われてきた共同作業や祭り、行事は人々の一

帯感を養い、強める役割を果たしてきた。しかし価値観の多様化や生活態様の变化で古いものや伝統的なものの価値が忘れられ、人々の心は新しいものや個々の生活を大切にしようになった。

祭りや行事の底に流れていた素朴な「民間信仰の心」がうすれ、祭りや行事への対し方が変わってきた。また担い手の不足等で祭りや行事は簡素化されるものが多く、なかには消滅したものもある。激しく変わる地区の様子にふるさと研究会員は驚きと不安を覚えた。地区の人々の一帯感を維持してきた祭りや行事、それを支えた素朴な「民間信仰の心」の力に改めて気付いた。

ふるさと研究会は人々の心に素朴な「民間信仰の心」が蘇ることを願った。そこで、かつては大事にされていたが今は見過ごされている民間信仰の場が再び人々の目に留まり、心に触れるようにとの想いで三十三霊場と八十八ヶ所を選定し番札を掲示したのであろう。

三十三霊場のなかに江戸後期から篤く信仰された観音霊場が八ヶ所含まれている。（資料一）また、三十三霊場と八十八ヶ所は多数重なっている。これは選定に際して昔から伝わる観音信仰や弘法大師信仰、地藏信仰等を大事にしたためであろう。

番札設置までには相当の日数を要し、幾多の苦労を重ね、経費もかかったであろうが、それらを厭わず活動した先人の姿が偲ばれる。

付記

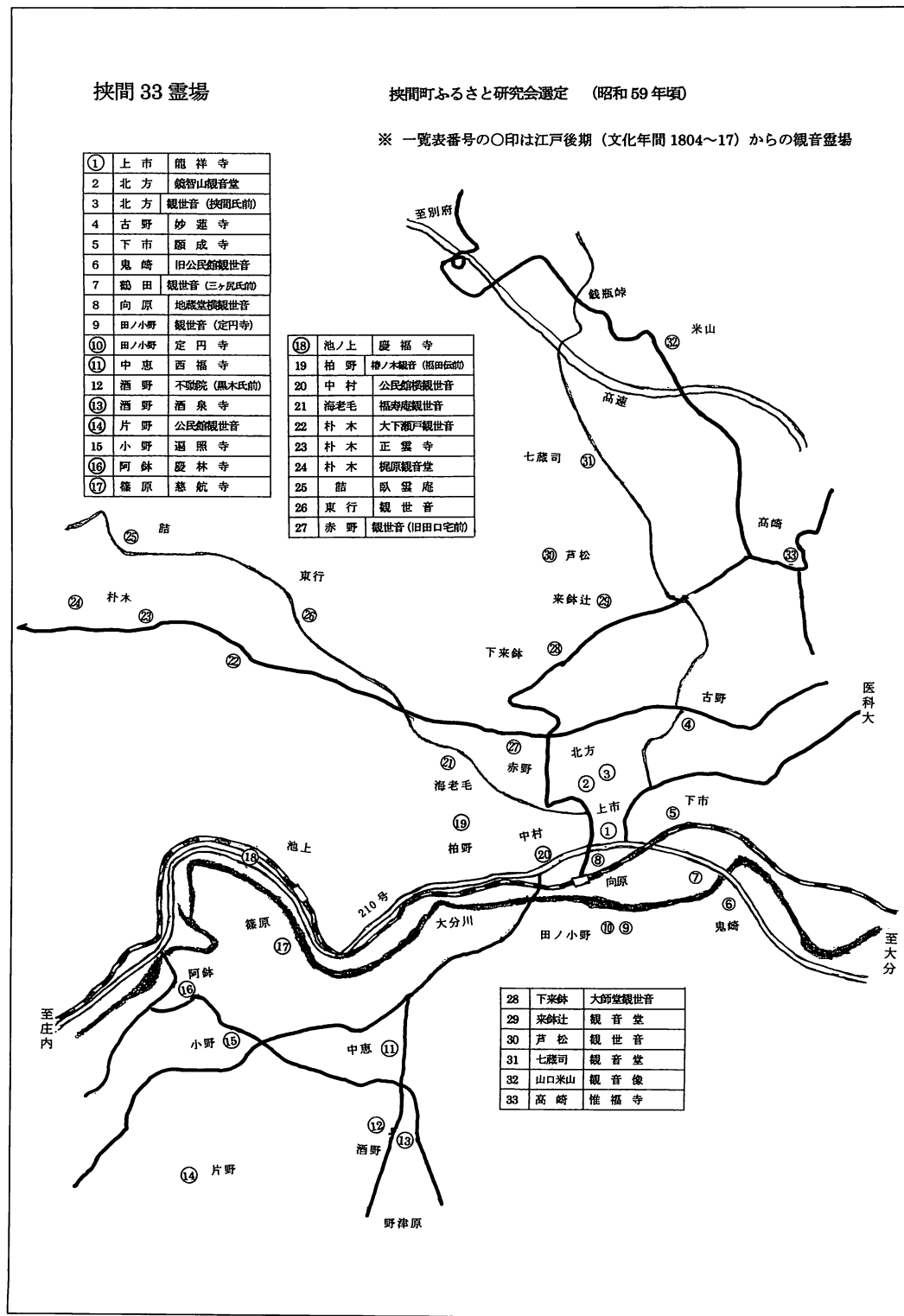
一、堂の傷みが進み湿気や高温による像の劣化が心配な所がある。

二、地区の人々、または個人が修理したり造り替えたりして、丁寧

三、管理者の世代が替わり、選定の経緯や貼られた番札を不審に思
 に管理されている所もある。

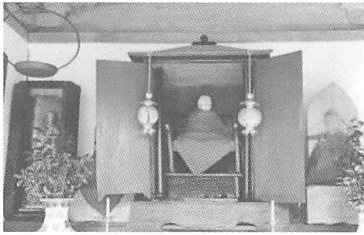
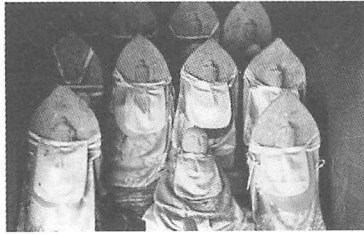
四、ふるさと研究会の活動記録が残されていないのが惜しまれる。

いながら管理している人がいる。

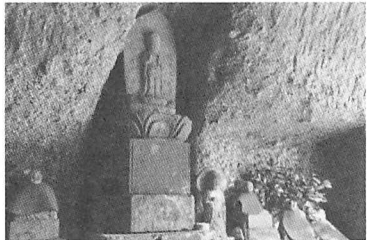


挟間 33 霊場

① 所在地 ② 管理者 ③ 備考

		
1 番 龍祥寺 観音堂 ① 上市 ② 龍祥寺 ③ 秘仏 戦国時代の挟間氏を 何度も助けた伝説	2 番 鏡智山 観音堂 ① 北方 ② 南大分在住者 ③ 上記の人が建て替え	3 番 観音堂 ① 北方 270-1 ② ③
		
4 番 妙蓮寺 ① 古野144番地 ② 妙蓮寺 ③ 地藏様祭り 1月23日 8月23日 8戸?	5 番 願成寺 ① 下市 ② 願成寺 ③	6 番 観世音 ① 鬼崎 ② 池辺吉人 ③ 昔はみんなで読経。今はま れにお参りの人あり。
		
7 番 観世音 ① 鶴田 685-3番地 ② 三河尻昭三 ③	8 番 光源地蔵庵 ① 向原 ② 矢野 ③ 屋根修理 (有志)	9 番 定円寺観世音 ① 田ノ小野 ② 定円寺 ③
		
10 番 定円寺地藏菩薩? ① 田ノ小野 ② 定円寺 ③	11 番 西福寺 ① 中恵 ② 西福寺 (廃) ③	12 番 不動院 ① 酒野1282番地 ② 酒野地区下の人 ③ 8月24日

13番 酒泉寺 ① 酒野 ② 上酒野 ③ 病を治す 施餓鬼 8月10日 有志でお接待	14番 観世音 ① 片野 公民館 ② 片野地区 ③	15番 遍照寺 ① 小野 ② 馬場の10戸余り ③ お接待
16番 慶林寺 ① 阿鉢 ② 板屋の3戸 ③ 1月、8月に読経 3戸が輪番でお接待	17番 慈航寺 ① 篠原 ② 慈航寺(廃) ③	18番 慶福寺 ① 池上 ② 慶福寺(無住) ③
19番 椿ノ木観音 ① 柏野 古屋敷 ② (福田伝氏前) ③	20番 観世音 ① 中村 公民館横 ② 地区 班が交替で世話 ③	21番 福寿庵 ① 赤野裏939-1-2 ② 団体(10戸) ③ 縁日 4月18日 お通夜 8月17日 当番は輪番制
22番 大下瀬戸観世音 ① 朴木1316-12 ② ③ 以前は観音像を広場に移し にぎやかに踊っていた	23番 正雲寺(善徳寺) ① 朴木1027番地 ② 正雲寺 ③	24番 梶原観音堂 ① 朴木 ② 平野いさお ③ 平野氏が造り替え

		
25番 臥雲庵 ① 詰 ② ③	26番 観世音 ① 東行字折戸 ② 東行地区 ③ 薬師祭り 1月8日	27番 観世音 ① 赤野 小野氏前 ② ③
		
28番 大師堂観世音 ① 下来鉢地区下組 ② 当番（輪番）の家に大師像を移しお接待	29番 地藏堂 ① 来鉢 辻 ② 辻組 ③ 講 1月、8月の24日	30番 観世音 ① 芦松 ② ③
		
31番 観世音 ① 七蔵司 ② ③	32番 観音堂 ① 山口 米山 ② 米山 3戸 ③ お接待 まれに参拝者あり	33番 惟福寺 ① 高崎 ② ③

資料 1

大分西国 33 霊場（文化年間 1804 ～ 1817） 挾間町誌より

1 番	東庄内村大竜	永慶寺	18 番	谷村辻尾（筒口）	藤城寺
2 番	” 山ノ鶴	玄德庵	19 番	” 葛小野	宝積寺
3 番	” 西 鶴	慈眼庵	16	20 番 ” 阿鉢	慶林寺
4 番	” 知 尾	大宝庵	17	21 番 ” 篠原	慈航寺
5 番	” 松ノ木	曹蓮寺	18	22 番 挾間村池ノ上	慶福寺
6 番	” 五ヶ瀬	長泉寺		23 番 谷村直野（中恵）	松林寺
7 番	”	醍醐寺	11	24 番 ” ”	西福寺
8 番	” 室小野	曹源寺	9	25 番 ” 田ノ小野	定円寺
9 番	” 龍 原	普門院		26 番 植田村鬼崎	慈眼寺
10 番	谷村 川 廻	瑞善寺		27 番 ” 横瀬	正法寺
11 番	” 谷口（小野）	頓清寺	1	28 番 挾間村上市	龍祥寺
14	12 番 ” 片 野	如意庵		29 番 賀来村平横瀬	極楽寺
	13 番 ” 嶽（下筒口）	妙音寺		30 番 ” 国分	国分寺
	14 番 東庄内村池の久保	寺床庵		31 番 府内	万寿寺
	15 番 野津原村栗灰	善福寺		32 番 大山村	大山寺
	16 番 野津原村今畑	福田寺		33 番 石城川村内成	石城寺
13	17 番 谷村 酒野	酒泉寺			

※ 網かけは江戸後期の33霊場のうち挾間町の15霊場

※ 番号 は現在の挾間33霊場の巡礼番号

資料 2

挟間町の観音像・地蔵像等

挟間町の文化財より（平成 11 年～ 14 年刊）

挟間地区

所在地		観 音 像	地 蔵 像	そ の 他	備 考
時 松 池 上	大津留	観音菩薩 木			
	慶福寺	聖観音 如意輪			
鬼 瀬	西隣保班	聖観音	地蔵		
	田中野	千手観音			
中 村 柏 野	公民館横	観音	地蔵 木		
	佐藤恵	十一面観音 如意輪観音			
向 原	龍祥寺	観音	地蔵		
		観音 浅彫		弘法大師 石	
	向原寺	観音 木	地蔵 木		
		十一面観音 如意輪観音	地蔵	童女供養塔 弥勒菩薩	
上 市 海老毛	光源庵	馬頭			
	清 白		地蔵		
	福寿庵	如意輪 内 千手観音 外		阿弥陀如来 内	
	鏡智山	十一面観音 内 千手観音 外 如意輪観音 外			
上 市 鶴 田	挟間幸雄	観音	地蔵		
	本 村	千手観音	地蔵		
	三河尻恭一	如意輪	地蔵		
	三河尻昭三		地蔵		
下 市	願成寺	観音 木	地蔵 木		・ 崖状の岩に 33観音像
	下市神社	観音	地蔵		・ 33仏像 (1770)

谷地区

所在地		観音像	地藏像	その他	備考
田ノ小野	元 宮	観音			
山 田	公民館		地藏	木	
東 山	薬師堂			薬師	
中 恵	西福寺			不動明王	
	白岳神社			薬師	
	佐藤	十一面観音		阿弥陀	
	佐藤	馬頭観音			
酒 野	黒木		地藏	大日如来	
	酒泉堂		地藏		
鍋の前				不動明王	
桑 鶴			地藏	毘沙門天	
小野中村	遍瑞寺				
小 野	遍上山	観音 多数	地藏 多数		230 基
		観音 木			
篠 原	大將軍			不動明王	

由布川・石城地区

所在地		観音像	地藏像	その他	備考
朴 木	平野			阿弥陀如来	
東 行		観音石塔		薬師如来	
古 野	妙蓮寺	聖観音	地藏 木	不動明王 木	
		千手観音	地藏	文殊	
		十一面観音			
石 城	米 山		地藏 (6 体)		
	七蔵司	観音			

※この他に多数の調査漏れ、未調査の仏像があります。